

うちのあかり地域ネットワーク醸成業務

報告書

2024年10月

NPO法人アーツセンターあきた

目次

1. 概要	2
1.1 目的	
1.2 対象	
1.3 期間	
1.4 業務内容	
1.5 実施体制	
2. 新屋地域の住民や団体を参加対象とするイベント「たきびっこ」について	3
2.1 イベント等の開催に関する背景の整理	
2.2 イベント内容の意図と意図に合わせた改善への取り組み	
2.3 イベント実施報告	
3. 新屋地域の住民や団体とのつながり形成に関する報告	6
4. 今後の課題	7
4.1 学生メンバーについて	
4.2 学生への広報について	
5. 考察	7

1. 概要

1.1 目的

NPO 法人 アートリンクうちのあかりを、地域に開かれたこれからの福祉施設を運営する団体にしていくことを目指し、主に秋田市新屋地区での地域ネットワークに参画し、うちのあかりの地域ネットワーク醸成のための施策を実施する。

1.2 対象

たきびっこ

1.3 期間

2024年6月25日～2024年10月31日

1.4 業務内容

次の施策を実施する。

- (1) 新屋地域の住民や団体を参加対象とするイベント等のディレクション
- (2) 本業務における活動に対する新屋地域の住民や団体とのコーディネート
- (3) 本業務における活動記録作成

1.5 実施体制

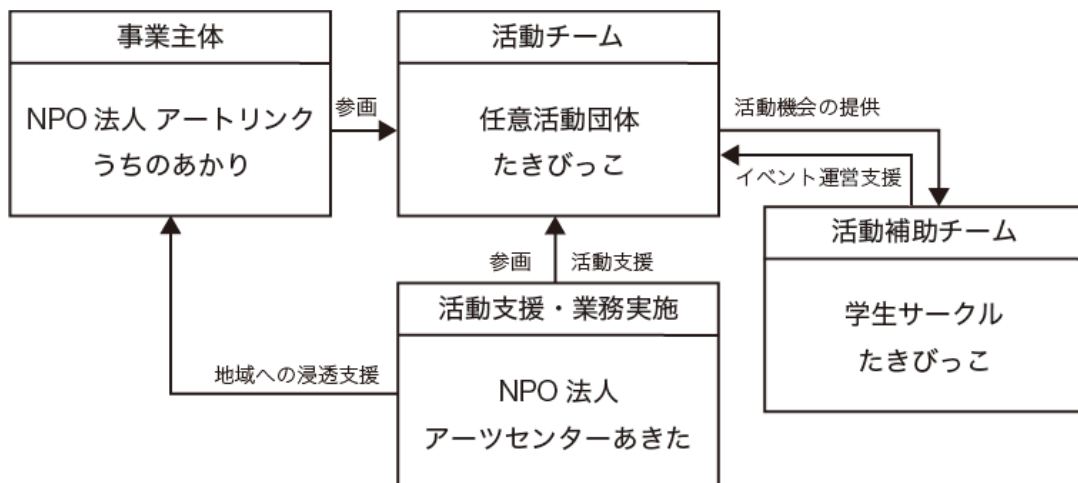


図1 実施体制図

2. 新屋地域の住民や団体を参加対象とするイベント「たきびっこ」について

2.1 イベント開催に関する背景の整理

「うちのあかり」は、秋田市新屋の南部（比内町）に位置し、アートの制作行為を媒介に障がい者と非障がい者と分けられる人々の間を「表現」を通じた「共生」「相互理解」の促進を図る場として、地域活動支援センターを運営する障がい者福祉活動を行うNPO法人（代表：安藤郁子 *秋田公立美術大学教授）である。

これまでに数々の展覧会（例えば、「あきたアート はだしのこころ」展）や、希望スペースへの作品展示を展開する事業「作品ホームステイプロジェクト」などを実施し、障がい者の作品を公開することを通して地域への参画を図ってきた。

それらの活動が良い反応を得ている一方で、地域活動支援センター周辺での周辺住民とのいざこざ（陰口、遠巻きに見る、見かけると逃げるなど）から、地域社会との相互理解が課題となってきた。また、郊外ではなく地域内での「うちのあかり」による生活介護事業も計画され始め、障害福祉の観点における障がい者と地域住民との干渉帯のあり方の検討に加えて、団体としても地域社会とのネットワーク形成が目標となっている。加えて、2022年から始めた「たきびっこ」など、地域内での活動を進める中で、うちのあかりにとっての「地域に開かれた」とはどのような状態を指すか、その定義も課題となってきた。

そこで、秋田公立美術大学の学生らを交えた地域内活動による地域社会への浸透を企図した「たきびっこ」の開催を継続しながら、うちのあかりが地域に参画するにあたっての視座を探求していくこととなった。

2.2 イベント内容の意図と意図に合わせた改善への取り組み

「うちのあかり地域ネットワーク醸成業務報告書」（2024年3月、NPO法人アーツセンターあきた）に記したように、2022年11月から開催を続ける「たきびっこ」は、実施体制図（図1）に示すように、新屋地域に拠点を持つ「うちのあかり」、「アーツセンターあきた」、秋田公立美術大学の学生有志で運営する、焚き火をコンテンツとする場づくりを主目的に行う月1回の定期イベントである。

地域住民や参加者との信頼関係醸成のため、相互に接する頻度の維持を目的として、当面の目標を定期開催とし、継続的な開催のための準備、片付け、告知など、イベント運営に掛かる労力の削減に努めてきた。

労力削減の例としては、

- ・使用物品の確定
- ・使用物品の置き場の確定
- ・開催日程を毎月第2日曜に設定
- ・告知チラシを年2回発行に集約
- ・チラシ以外の告知はFacebookのみを使用

- ・ 焚き火のみを用意しているイベントと設定
 - ・ 事前準備を行わない。
 - ・ 様々な屋外企画が行えるプラットフォームとして位置付け、企画の持ち込みを歓迎することで、参加者や企画持ち込み者に場の多様性を委ねる。
- などを行うことで、最小限ではスタッフ2名での開催が可能となっている。

2.3 イベント実施報告

2023年度後半から開始した月1回の定例開催を引き継ぎ、4月より毎月第2日曜日の正午から午後4時で「たきびっこ」を開催した。昨夏は猛暑対策でイベント開催を取りやめたが、その間に認知度向上を図れないことや参加者との関係が断たれてしまった反省から、1年を通して開催することを決定した。

	<p>【レイアウト】</p> <p>エントランスの明示、テントの位置、椅子の配置など、来場者が一箇所に集ったり、それぞれの仲間内で話したり、一人でも落ち着くことができる様々な参加の仕方を考慮したレイアウトを検討。</p>
	<p>【多様性】</p> <p>来場者は幼児から高齢者まで、地域も近所や隣町、県内と幅広く、属性も異なる。知らない者同士でも、焚き火を囲むことで一緒に居ることができ、お菓子などを焼きながらその場に佇むことで、年代を超えて対話が生まれることも多い。また、所属の異なる同世代の若者同士の出会いにも寄与している。</p>



【持ち込み企画】

「たきびっこ」は持ち寄り・持ち込みができる場づくりとして開催することで、多くの企画の持ち込みがあった。

←はかり組み木



←弾き語り



←読み聞かせ

	<p>←フリーコーヒー</p>
	<p>【遊びを生み出す】 おもちゃやゲームなどがなくても、その場にある物で遊びは生み出せることを多くの子どもたちが示した。</p>
	<p>【空間維持】 月1回の開催によって、地域内の空き地の草刈りが定期化され、周辺住民にとっても良好な空間を維持することができた。草刈りは会場準備や開催中に遊びの一環として行うことで、労力も低減できている。</p>

3. 新屋地域の住民や団体とのつながり形成に関する報告

人や団体を「たきびっこ」に招いて活動を紹介したり、参加を促すことを通じたネットワーク形成を行わず、様々な個人や団体が来場・持ち寄り・企画の持ち込みなど、主体的に関わることができる余白を持ったプラットフォームとしての位置付けを通して、多様な人々が過ごせる場をつくる仲間としてのつながり形成に重点を置いてきた。

月1回の定期開催と安定的な運営、草刈りを含む環境維持、通行者への挨拶などを続けてきたことで、イベント時には近隣住民から「こんにちは」「がんばってるね」と声をかけてもらったり、町外から散歩を兼ねた来場、子どもを連れた家族での来場があるなど、活動への安心感や信頼感が醸成されていきていることが伺える。

また、身体的あるいは知的な障がいを持つ方も来場するが、状態に合わせて場を共有して過ごすことができおり、多様性の高い場を地域内につくることができていると考えられる。この成果は、日頃から自由度の高い地域活動支援を行っている「うちのあかり」が事業主体であることによってもたらされていると考えられることができる。

4. 今後の課題

4.1 学生メンバーについて

理念を組み上げてきた立ち上げメンバーが上級生になり、活動やイベント運営は容易になったが、一方で今後の活動継続について不安の声が上がってくるようになった。秋田公立美術大学1年生を中心に月1回の「たきびっこ」運営や企画の持ち込みを打診していくこととしたが、同時に1年生からも「たきびっこ」に運営に関わりたいたいと思っていたという反応があった。立ち上げメンバーは自らが主体的に関わってきたことから、活動を引き継ぐ場合も新しいメンバーが主体性を持てる方法を望んでいる。

現在は、メンバーを決めて引き継ぐのではなく、活動に関わってもらいながら活動への関与を相談していく方向で進めることとなった。

4.2 学生への広報について

来場者は概ねチラシやFacebookの投稿、うちのあかりのウェブサイトなどを見たり、これまでと変わらず口コミで来場しているが、学生は学内のチラシのみが情報となっていることから、ポスターや異なるSNSの活用が検討されている。12月の回でポスター掲出を実施し、その効果を図ることとなった。

5. 考察

熊谷晋一郎が言う「自立することは、依存先を増やすこと」には、日常的に訪れる場所も含まれていると考えられる。「自分」はいつも一定ではなく、日々感情や体調も変わるし、年齢を重ねることで変わっていく。「自分」が居れる場所、訪問できる場所も、自身の変化、日々の変動によって変わってはいないか。

「たきびっこ」で全ての人が全てを享受する場を用意することは難しく、これは一つの性質を持った場でしかない。地域内に異なる性質の場を創出していくことが、地域全体として多様性を受け入れることができる環境形成につながると考えられるのである。

うちのあかり地域ネットワーク醸成業務報告書

2024年10月

NPO 法人 アーツセンターあきた

〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 アトリエももさだ内

TEL 018-888-8137 FAX 018-888-8147